

シクリスムエコーNo.86 2002年4・5月号

平成14年度 事業計画	2	2002トラック・ワールド・カップ	10
第27回チャレンジ・サイクル・ロードレース	4	アジア選手権・ジュニア・アジア選手権代表選手団	11
西日本チャレンジ/全日本実業団選抜トラック	5	日本新記録/CSC2002マスターズ募集	11
平成13年度 高校選抜大会	6	連載企画 アンチ・ドーピングについて	12
2002マウンテンバイク・ジャパンシリーズ開幕	7	UCIニュース/JCFニュース	13
チョン・ジュMBC国際ジュニア・ロードレース	8	強化合宿/受章/表彰	14
ジュニアチーム・オーストラリア合宿	9	JBMXF第1戦/大会結果/沖 美穂/実業団35周年	15



平成14年度事業計画

財団法人 日本自転車競技連盟

方針

新世紀を迎えた昨年は、世界を震撼させる大事件が発生、衰退する経済をより加速させる嫌な一年であった。

先進7ヶ国のうち、イタリアと同格の最下位に崩れ落ちた我が日本、それでもまだ世界有数の援助国である経済大国日本。解せない現実残酷である。小泉総理の云う「構造改革には国民に痛みを」が一般国民に浸透して来ている事をひしひしと感ぜざるを得ない。

公益補助金に依存している我が団体、今こそ真剣に方向性の検証と軌道修正を余儀なくせざるを得ない時期が到来した。

苦境に立った時の人間の知恵、アイデア、黙って見ていては何も生まれない。実行あるのみ。逆境がチャンスに変わるべく頑張ろうではありませんか。

2002年はUCIの組織も変革が顕著である。主要大会ドラフトの改革、日程調整等、ヨーロッパ至上主義が盤石化、自転車競技の将来はどう展開するのか、アジアの大国日本の明日はどうなるのか。悲観する事は無い、日本には優秀なアスリートも存在するし、優秀な頭脳も持ち合わせている。発想を転換し、それをクリアすれば道は開ける。

2004年のアテネオリンピックもすぐに来る。新ナショナルチームも編成した。諸制度、諸規定も見直しに入っている。連盟の根幹をなす事業推進実行は当然とし、見直すべきは見直し、整理統合、合理化促進しなければ生きて行けない。連盟役員一丸となり、連盟の発展に邁進する覚悟である。

以下各部課の事業の骨子を連記する。

〔総務部〕

経済不況が、本連盟事業にも確実に影響を及ぼし、財源の確保が非常に厳しくなっている。

そこで、さらなる自主財源の確保や事業の整理統合等を含めた合理化が急務の問題となっている。

〔業務部〕

登録、記録表示等を円滑に図るため、長年の課題となっていた新システムへの方向性が前年度末に完成した。本年度は従来のシステムからITを取り入れた新システムへの移行試行年度とし、

速やかな具体化を図る。

国内競技大会の開催に当たっては、厳しい環境の中、合理的な運営を目指すと共に、引き続き計時表示システム等の開発を促進し、観客、選手ともに魅力を感じる大会を実現する。同時に審判員、指導者の育成及び有資格者の質の向上を図り、自転車競技の振興を促進する。

〔選手強化部〕

アテネオリンピックへの本格的なスタートの年ともなる2002年は、同時に第14回アジア競技大会の年でもあり、きわめて重要な一年となろう。

このため、選手強化におけるトラック短距離においては、昨年度末、新たにナショナルチームを編成した。これに特別育成チームを加え強化の主体に位置づけ、「世界標準」を基準にした選手強化に努める。

具体的には、競技者個々の競技力向上に取り組む創造的な強化姿勢を確保する事は勿論であるが、これをサポートする強化コーチ、医科学委員、強化スタッフ等の綿密な連携を図り、有効かつ機能的なサポート体制を確立し、もって各種国際大会において、表彰台に立てるべく可能性のある競技者の育成に努める。

また、中距離においても世界レベルに近づいたことから、更に高い目標を掲げ、強化内容を明確化し、併せ長距離についても積極的に強化推進に努める。

〔国際事業推進室〕

スポーツ団体の将来を考えると、国際化は重要なテーマである。

国内外における国際的事業推進の障壁となるものは、地勢的な条件はもちろんであるが、通信手段の発達した現在においては言語の障壁を低くすることが重要である。このためには、外国語に精通した者を登用していくことと、諸文書を日本人と外国人が相互に理解できる形にすることが重要であろう。また、日本の競技者が国際的に活躍するための基礎として、国内諸制度の国際的制度との整合化や国際的に活動する競技者や審判、コーチなどの支援体制を整備していくことも重要である。

上記のことを踏まえて、国際事業推

進室は、本連盟諸事業の場において、人材の発掘/養成/登用、資料/文書の2ヶ国語(日本語・英語)化、国内外の情報の収集、対外(国内外)的な情報の蓄積及び公開、そしてこれらのための事務局内での情報の共有化及び事務局整備を推進する。そして、これらの円滑な推進のため、関係者/団体との良好で緊密な協力関係を育成していく。

以上が本年度の事業計画の方針及び概要であるが、実施事業については以下のとおりである。

実施事業

1 自転車競技国内競技大会関係事業

次の主要大会は、担当専門委員会において実施要項を作成し、適切な大会運営を図り、自転車競技の啓蒙普及及び競技者、審判員の技術の向上に資するものである。

- ①ジャパンカップロードレース大会
- ②全日本自転車競技選手権大会
- ③その他国内大会

2 国内での国際競技大会

アジア室内自転車競技選手権大会支援

3 国際競技大会関係事業

世界選手権大会、ワールドカップ等の国際大会に日本代表選手団を派遣する。また、UCI等国際機関の会議に参画し、国際情勢を的確に把握する。国際審判員等を諸外国へ派遣し、高度な理論及び技術の習得を行うとともに積極的な国際交流を図る。

- ①世界選手権自転車競技大会(種目別)選手派遣
- ②アジア大会選手派遣支援
- ③アジア自転車競技選手権大会選手派遣
- ④国際大会選手派遣
- ⑤2002年国際グランプリケイリン選手派遣
- ⑥国際会議への派遣
- ⑦国際審判員の派遣
- ⑧外国自転車競技関係者の招聘

4 加盟団体関係事業

加盟団体が実施する事業が、自転車競技の啓蒙普及及び競技者、審判員の技術の向上を図るうえからも円滑に運営できるように支援するものである。

(1)都道府県連盟関連事業

- ①全国地域別道路競走大会(8地域)
- ②全国地域別トラックレース大会(8地域)
- ③全国都道府県別自転車競技選手権大会(47都道府県)
- (2)日本プロフェッショナルサイクリスト協会関連事業
- ①全日本プロフェッショナル自転車競技選手権大会
- ②全国地区別プロフェッショナル自転車競技選手権大会
- ③プロサイクリスト強化事業他
- (3)全国高等学校体育連盟自転車競技専門部関連事業
- ①全国高等学校選抜自転車競技大会(トラック、ロード)
- ②全国高等学校自転車競技合宿
- ③全国高等学校指導者養成講習会
- (4)日本学生自転車競技連盟関連事業
- ①全日本大学対抗選手権自転車競技大会
- ②全日本学生選手権自転車競技大会(トラック、ロード、チームロード)
- ③東西地域別自転車競技大会
- ④アジア学生交歓自転車競技大会他
- (5)全日本実業団自転車競技連盟関連事業
- ①全日本実業団対抗サイクルロードレース大会
- ②全日本実業団自転車競技選手権大会
- ③全日本実業団対抗クリテリウム大会他

5 アンチドーピング事業の推進

国内全日本大会クラス実施

6 強化・普及事業

ナショナルチームを中心とした選手強化を重要施策として設定し、本大会において好成績が収められるよう国内外の強化合宿を実施し、選手・スタッフの連携を綿密にした選手強化訓練事業を展開する。

また、次代を担う選手に対しては積極的に国内外の競技大会に派遣し、その育成強化を図る。

さらに自転車競技者の拡大及び競技大会への参加者の増加を図るため、自転車界に限らず広い範囲において競技情報の提供を行い、普及事業を展開する。併せて、全国各地より選手を一同に集め、優秀な人材発掘を目的とした記録会の実施・支援を行う。

- (1) 選手強化訓練事業
- (2) 全国自転車競技指導担当者研修会
- (3) 自転車競技の普及・広報事業
- (4) ケイリン種目普及指導事業
- (5) 機関誌発行事業
- (6) チャレンジ・サイクル・ロードレース大会

7 調査研究事業

国内競技大会の規則を整備すると共に、ランキングを始めとする、競技情報の管理システムを構築し、競技大会の

今日的な在り方を研究する。

また、国際自転車競技連合(UCI)に係わる情報の収集及び諸外国の実状を分析・検討し、国際的な諸制度に合致するよう競技環境の整備方法等を研究する。

- (1) 国内競技大会に関する研究
- (2) 国際競技における制度等に関する調査研究
- (3) 選手強化等に関する調査研究
- (4) 新登録成績管理システムの整備
共催事業の実施

関係支援団体と共にロ・ドレースの開催を通して我が国における自転車競技の啓蒙及び健全なる国民生活の向上を図り、もって体育文化の発展に寄与するものである。

- (1) ツアー・オブ・ジャパン(自転車月間推進協議会・朝日新聞社)
- (2) ツール・ド・おきなわ(ツール・ド・おきなわ協会)
- (3) ツール・ド・北海道((財)ツール・ド・北海道協会)
- (4) ツール・ド・とうほく(組織委員会・財)河北文化事業団)
- (5) ツール・ド・紀伊(3DAY ROAD 熊野実行委員会)
- (6) シマノ鈴鹿国際ロードレース大会((株)シマノ)

収支予算書総括表

(単位:円)

科目	合計	一般会計	日本体育協会 補助事業 特別会計	国際競技力 向上事業 特別会計	初光ッ キャン ン事業 特別会計	日本自転車振興会 公益補助事業 特別会計
Ⅰ. 収入の部						
基本財産運用収入	150,000	150,000	0	0	0	0
会費収入	21,000,000	21,000,000	0	0	0	0
事業収入	631,561,000	16,500,000	0	0	0	615,061,000
補助金等収入	106,252,000	75,550,000	5,550,000	16,526,000	3,200,000	5,426,000
負担金収入	12,613,000	4,850,000	0	7,763,000	0	0
寄付金収入	1,000,000	1,000,000	0	0	0	0
雑収入	3,176,500	3,150,000	12,500	10,000	4,000	0
繰入金収入	2,600,000	0	600,000	0	0	2,000,000
当期収入合計	778,352,500	122,200,000	6,162,500	24,299,000	3,204,000	622,487,000
前期繰越収支差額	0	0	0	0	0	0
収入合計	778,352,500	122,200,000	6,162,500	24,299,000	3,204,000	622,487,000
Ⅱ. 支出の部						
事業費	65,635,000	65,635,000	0	0	0	0
管理費	50,065,000	50,065,000	0	0	0	0
日本体育協会補助事業費	6,162,500	0	6,162,500	0	0	0
国際競技力向上事業費	24,299,000	0	0	24,299,000	0	0
初光ッ・キャン ン事業費	2,604,000	0	0	0	2,604,000	0
日本自転車振興会補助事業費	622,487,000	0	0	0	0	622,487,000
特定預金支出	3,500,000	3,500,000	0	0	0	0
繰入金支出	2,600,000	2,000,000	0	0	600,000	0
予備費	1,000,000	1,000,000	0	0	0	0
当期支出合計	778,352,500	122,200,000	6,162,500	24,299,000	3,204,000	622,487,000
当期収支差額	0	0	0	0	0	0
次期繰越収支差額	0	0	0	0	0	0

(注) 借入金限度額: 50,000,000円

第27回チャレンジ・サイクル・ロードレース



A-Eの集団を引く鈴木真理(中央)



A-Fの1位大塚(左)2位齋藤



将来期待のB-Cクラス

[競技結果]

A-E (60km)



- | | | | |
|----|-------|-------------|-------------|
| 1 | 鈴木 真理 | JPCA 汙ノ | 1:38:41.962 |
| 2 | 新保 光起 | JPCA 愛三工業 | 1:38:42.071 |
| 3 | 狩野 智也 | JPCA 汙ノ | 1:38:42.619 |
| 4 | 今西 尚志 | 京都 汙ノ | 1:39:30.782 |
| 5 | 飯島 誠 | JPCA | 1:39:39.141 |
| 6 | 行成 秀人 | 岡山 宮田工業 | 1:39:47.825 |
| 7 | 中川康二郎 | 茨城 スパノK | 1:40:29.360 |
| 8 | 渋谷 淳一 | JPCA ブリヂストン | 1:40:32.526 |
| 9 | 西谷 雅史 | 東京 | 1:41:25.945 |
| 10 | 田中 光輝 | 愛知 愛三工業 | 1:41:50.426 |

A-M (35km)

- | | | | |
|----|-------|----------------|-------------|
| 1 | 渥美 守弘 | 静岡 吉田機工 | 1:02:35.948 |
| 2 | 砂田 哲司 | 群馬 つじ接骨院 | 1:02:36.361 |
| 3 | 小泉 操 | 埼玉 シロガチン | 1:02:37.056 |
| 4 | 高梨真幸人 | 東京 音羽 | 1:02:38.192 |
| 5 | 横田 光史 | 茨城 原子力研 | 1:04:08.211 |
| 6 | 森下 繁 | 大阪 汙ノ | 1:04:30.200 |
| 7 | 野崎 鉄雄 | 東京 材ノ | 1:04:31.963 |
| 8 | 綾野 真 | 神奈川 AYANO.PHOT | 1:06:20.780 |
| 9 | 黒川 隆之 | 神奈川 ミニ電機 | 1:06:29.247 |
| 10 | 奥 俊彰 | 埼玉 協和工機 | 1:06:47.562 |

A-U (40km)

- | | | | |
|----|-------|---------|-------------|
| 1 | 普久原 奨 | 沖縄 日本大学 | 1:08:23.392 |
| 2 | 鈴木 謙一 | 静岡 法政大学 | 1:08:28.023 |
| 3 | 石田 哲也 | 愛知 | 1:08:34.402 |
| 4 | 上田 誠 | 奈良 立命館大 | 1:08:35.499 |
| 5 | 小野寺孝太 | 岩手 日本大学 | 1:08:39.057 |
| 6 | 吉井 淳 | 広島 関西大学 | 1:08:39.113 |
| 7 | 辻 貴光 | 京都 立命館大 | 1:08:39.230 |
| 8 | 和野内公次 | 大阪 | 1:08:39.346 |
| 9 | 泉川 芳則 | 香川 中央大学 | 1:08:39.420 |
| 10 | 岩本竜太郎 | 広島 京産大学 | 1:08:39.430 |

A-J (40km)

- | | | | |
|----|-------|----------|-------------|
| 1 | 池田 丈志 | 奈良 北大和高 | 1:09:01.004 |
| 2 | 西村 光太 | 三重 三重高校 | 1:10:03.736 |
| 3 | 小野 哲裕 | 神奈川 藤沢北高 | 1:10:05.596 |
| 4 | 立里 匡道 | 山形 山形電波 | 1:10:05.755 |
| 5 | 島田 真琴 | 東京 八王子工 | 1:10:05.878 |
| 6 | 天沼 雅貴 | 北海道 尚志学園 | 1:10:05.945 |
| 7 | 長沼 隆行 | 埼玉 小松原高 | 1:10:09.850 |
| 8 | 村上 純平 | 山形 山形電波 | 1:10:22.152 |
| 9 | 辻 善光 | 京都 北桑田高 | 1:10:56.042 |
| 10 | 竹之内脩兵 | 京都 宇治高校 | 1:10:56.204 |

A-F (20km)

- | | | | |
|----|-------|------------|-----------|
| 1 | 大塚 恵美 | 東京 明治大学 | 39:28.943 |
| 2 | 齋藤 綾 | 秋田 順天堂大 | 39:29.312 |
| 3 | 中村 珠藻 | 奈良 順天堂大 | 40:29.543 |
| 4 | 西 加南子 | 千葉 | 40:43.179 |
| 5 | 小野山恵美 | 愛媛 C.S.カザリ | 41:06.168 |
| 6 | 村中恵美子 | 東京 三ツミツリ | 41:22.700 |
| 7 | 楠 里紗 | 東京 山崎高校 | 42:04.529 |
| 8 | 林 佐知子 | 東京 カガリ | 42:37.299 |
| 9 | 塩原 桂子 | 東京 山崎製パン | 42:56.569 |
| 10 | 増子 育代 | 東京 | 44:02.413 |

2002 西日本チャレンジ・サイクル・ロードレース

「日本版春を呼ぶレース」として定着した感もある広島県中央森林公園で行われる西日本チャレンジレース。シーズンに向け各選手の仕上がりを見るのには絶好のレースである。レースは序盤戦から狩野・鈴木のみが飛び出し、それを第2集団が追うという形になった。先行する2名を追い込むのに第2集団は十分役者が揃っていた。が、差は決定的に縮まらない。いくらか第2集団のシマノ勢が集団をコントロールしていたようだが、レース自体はコースレコードに近いスピードでラップは刻まれており、決してガラガラとしたレースではない。何度か第2集団からのエスケープが試みられるが成功せず、レース序盤より逃げ続けた二人がそのまま逃げ切り、狩野の優勝で終わった。(高橋 真)



[競技結果]

A-E (61.5km)			
1	狩野 智也	シムール・シグ	1:31:48.34
2	鈴木 真理	シムール・シグ	1:31:48.62
3	今西 尚志	シムール・シグ	1:32:28.73
4	廣瀬 敏	日本舗道レーシング	1:32:34.60
5	岡崎 和也		1:32:36.24
6	大内 薫	シムール・シグ	1:32:37.01
7	阿部 良之	シムール・シグ	1:32:38.39
8	行成 秀人	ミヤハシ ルーシング	1:32:40.58
9	中川康二郎	ミヤハシ ルーシング	1:32:48.94
10	鈴木 雷太	フタツチ	1:33:55.58
A-M (36.9km)			
1	松井 久	シムール・シグ	1:02:06.58
2	山本 雅一	武田産業	1:02:13.10
3	森下 繁	シムール・シグ	1:02:18.98
4	三村 尚	チーム岡山	1:03:26.53
5	櫻脇 哲也	カガワFET	1:03:29.82
6	杉野 和宏	チーム岡山	1:03:38.92
7	池田 恵次	西神戸クラブ	1:05:31.90
8	松井 正通	JOTO	1:05:52.44
9	北嶋 千里	鷲羽レーシング	1:07:24.81
10	石井 洋	トヨーレーシング T.	1:07:29.08
A-U (36.9km)			
1	辻浦 圭一	TESTACHI	56:10.71
2	和野内公次		56:22.19

3	内山 靖樹	ミヤハシ ルーシング	56:27.36
4	辻 貴光	立命館大学	56:31.48
5	吉井 淳	関西大学	56:36.77
6	岩本竜太郎	京都産業大学	56:36.79
7	品川 真寛	ミヤハシ ルーシング	56:36.92
8	山本 敬純	立命館大学	56:37.09
9	小笠原崇裕	TESTACHI	56:37.44
10	清水 良行	京都産業大学	56:38.63
A-J (36.9km)			
1	池田 丈志	北大和高校	57:51.28
2	西村 光太	三重高校	58:20.51
3	辻 善光	北桑田高校	58:39.08
4	村上 純平	山形電波工業高	58:39.35
5	柿本 勇介	日出陽谷高校	58:39.47
6	小野 哲裕	藤沢北高校	58:40.18
7	谷垣 雄基	北桑田高校	58:40.83
8	池田 直道	三田学園高校	58:41.22
9	池田 良	広島国際学院高	58:43.15
10	立里 匡道	山形電波工業高	58:44.62
A-F (24.6km)			
1	小野山恵美	equipeURacing	46:42.47
2	前川 康子	奈良県車連	49:46.02
3	谷村祐美子		50:51.57
4	森田 弘子		51:12.16
5	岡田 未木	北桑田高校	51:15.85
6	梯 浩子	シムール・シグ	56:28.09

第2回 全日本実業団選抜トラック記録会



団体追抜1位の愛三工業



[競技結果]

(4/14 日本CSC/競輪学校250mトラック)

男子1kmタイムトライアル			
1	在本 直樹	三菱化学RC	1:06.798
2	鈴木 英介	VELOCE	1:11.558
3	大村 慶二	GATTA	1:11.760
4	奥平 充男	岩井商会	1:11.828
5	川村 崇	シムール・シグ	1:11.941
6	駒井 大輔	立教CC	1:12.093
男子スプリント			
1	屋良 朝春	チェン	
2	青木 亮太	HARP R	
3	湯原 正行	TCマインド	
4	塩原 正長	サキ	
5	朝倉 佳弘	パインズ	
6	奥平 充男	岩井商会	
男子4km個人追抜競走			
1	高橋 栄光	シムール・シグ	5:01.917
2	真鍋 和幸	ミヤハシ ルーシング	5:02.263
3	坂口 博	愛三工業RT	5:03.144
4	行成 秀人	ミヤハシ ルーシング	5:05.610
5	飯島 誠	シムール・シグ	5:06.278
6	高橋 仁	チェン	5:07.588
男子ケリソ			
1	朝倉 佳弘	パインズ	
2	吉田 康則	三菱化学RC	
3	石丸 健次	チームBM	
4	松本 陽介	HARP R	
5	櫻井 文	VELOCE	
6	高橋 浩幸	岩井商会	

男子ホップレース

1	飯島 誠	シムール・シグ	43 p
2	高橋 栄光	シムール・シグ	29 p
3	坂口 博	愛三工業RT	21 p
4	中川康二郎	ミヤハシ ルーシング	19 p
5	行成 秀人	ミヤハシ ルーシング	15 p
6	小林 大樹	カガワRT	14 p

男子総合スプリント (200m+250m+1km)

1	鈴木 英介	VELOCE	1:42.972
2	奥平 充男	岩井商会	1:43.633
3	屋良 朝春	チェン	1:43.917

男子チームスプリント

1	三菱化学RC	吉田・在本・藤原	51.456
2	チェン	西尾・安藤・善波	52.351
3	シムール・シグ	丹沢・高橋・水澤	52.755
4	チェン	川畑・仲松・中村	53.966
5	SOMEDAY	荒木・飯田・佐藤	58.842

男子団体追抜競走

1	愛三工業	坂口・郡山・秋田	4:48.847
2	ミヤハシ ルーシング	中川・行成・真鍋・浅野	4:56.976
3	カガワRT	中田・櫻脇・藤田・小林	5:03.991

女子500mタイムトライアル

1	篠崎 新純	千葉経済大付高	39.404
2	浜田 真子	シムール・シグ	42.660
3	杉村 久美	シムール・シグ	43.239

女子3km個人追抜競走

1	杉村 久美	シムール・シグ	4:08.893
2	篠崎 新純	千葉経済大付高	4:39.201
3	浜田 真子	シムール・シグ	4:47.850

平成13年度 高校選抜大会



ケイリン決勝

本年の高校選抜大会は3月22日(金)~25日(月)の日程で、トラックレースは山梨県境川自転車競技場、ロードレースは昨年と同様、日本CSC(逆回り)にて延べ4日間の熱戦を繰り広げた。

<トラックレース>

【1kmタイム・トライアル】

この種目を得意としている最終組発走の、橋本 強(松山聖陵2年)が優勝、昨年選抜大会3kmインディヴィデュアル・パーシュートの覇者、臼井昌巨(岐南工2年)が0秒459差で惜しくも2位。結局1分10秒を切ったのはこの2名で、両者の昨年のベストタイムを考えるとやや物足りない感はあるが、「タイムそのものよりも優勝できたことがうれしい」とのコメントで、タイムに関してはあまり気にしていない様子であった。両者の来年度の大会での活躍に期待したい。

【3kmインディヴィデュアル・パーシュート】

1/2決勝において予選1位の池田丈志(北大和2年)が、予選4位の吉田裕全(川越工2年)に敗れる波乱があった。長身を生かし終始安定した走り、吉田は勢い乗って決勝でも、予選2位の熊谷薫(岩瀬農2年)に先着、この種目初優勝を果たした。

【スプリント】

決勝は、予選1位の前田義和(鹿児島実業2年)と予選3位の北津留翼(豊国学園1年)の九州勢同士の対決となった。北津留が熊本インターハイ優勝の実績通り見事優勝。3位には古屋(日出暘谷2年)が入り、九州勢で表彰台独占であった。

【ポイントレース】

ゴール着順次第では、7名の選手に優勝の可能性が残されており、レース後半の動きに注目された。11回目、最終回と積極的に展開し、連続で1着通過の三瀧光誠(村山農2年)が28点で栄冠を手にした。最終回2着通過の坂本昌宏(八戸工2年)

が18点で2位と東北勢がワンツーを決めた。

【ケイリン】

高体連種目の中では最も勝ち上がりの厳しいこのレース、荻原和文(前橋工2年)が、予選から冷静なレース運びで、決勝戦でもバック2番手まくりで無傷の三連勝で優勝を飾った。2位は荻原マークの柴崎俊光(朝明2年)、3位には桑原亮(久工大附属2年)が入った。

【エリミネーション・レース】

入賞圏内の3名が落車する等、やや荒れた感のある決勝であったが、その中でも後半より終始好位置キープで余力を残して小森正和(岐阜第一2年)が優勝、2位には尾形恭太(八戸工2年)が入った。

【500mタイムトライアル】

最終組発走の篠崎新純(千経大附属)がダイナミックな走り、38秒741の大会新記録で優勝、昨年に引き続き栄冠を手にした。2位平中(伊保内)、3位落合(古川工)と関東以北の選手の健闘が目立った。

【2kmインディヴィデュアル・パーシュート】

永田萌子(別府商1年)、松尾亜美(日出暘谷2年)の大分勢同士の対決となった。ホームスタートの永田が、最終周回の松尾の猛追をしのぎ、スタートからのリードを守りきった。

4位にも大分勢の宮崎(別府商1年)が入り、この種目の選手層の厚さが見られる。

<ロードレース:男子>

会場を日本CSCへ移し、前日までとは違い寒い中での逆周り8周でのレースであった。レース中盤から2名の選手が飛び出し、最終回に振り切った西村光太(三重1年)が優勝、2位には池田丈志(北大和2年)が入った。出走157名中完走64名であった。

<ロードレース:女子>

1周目こそ集団であったが、常に先頭集団で機を伺っていた永田萌子(別府商1年)が2周目の2号橋過ぎから後続を引き離れた。一定ペースでラップを重ねるも、最終回には常に視野に入っていた篠崎新純(千経大附属)も振り切り独走ゴール、本大会2種目の優勝を飾った。3位には宮崎杏奈(別府商1年)が入り、他種目を含め、女子種目は大分勢の大活躍であった。

季節柄天候が不安定で、特にこの季節特有の強風で安全面において心配されたが、山梨県をはじめ、関係各位のご協力により大会を運営することが出来た。紙面をお借りしてお礼申し上げます。

(中田 将次)



男子ロード優勝の西村光太

[競技結果]

男子1kmタイムトライアル

- 橋本 強 愛媛 松山聖陵高 1:09.397
- 白井 昌巨 岐阜 岐南工業高 1:09.856
- 須賀 和彦 茨城 取手第一高 1:10.334
- 河端 朋之 鳥取 倉吉工業高 1:11.266
- 五日市 誠 青森 八戸工業高 1:11.302
- 甲斐 康昭 群馬 前橋工業高 1:11.470

男子スプリント

- 北都留 翼 福岡 豊国学園高校
- 前田 義和 鹿児島 鹿児島実業高校
- 古屋 晋也 大分 日出暁谷高校
- 三澤 康人 宮城 南光学園東北高校
- 松田 優一 茨城 取手第一高校
- 吉松 賢二 群馬 前橋工業高校

男子3km個人追抜競走

- 吉田 裕全 埼玉 川越工業高 3:49.658
- 熊谷 薫 福島 岩瀬農業高 3:55.438
- 青木 康貴 岐阜 岐南工業高 3:53.484
- 池田 丈志 奈良 北大和高校 3:55.496
- 矢代 真悟 富山 氷見高校 3:49.060
- 小岩 大介 大分 日出暁谷高 3:49.977

男子ケイリン

- 荻原 和文 群馬 前橋工業高校
- 柴崎 俊光 三重 朝明高校
- 桑原 亮 福岡 久米工大付属高校
- 倉知 裕也 愛知 桜丘高校
- 川崎 大慈 熊本 千原台高校
- 藤木 裕 京都 花園高校

男子リミテッド

- 小森 正和 岐阜 岐阜第一高校
- 尾形 恭太 青森 八戸工業高校
- 稲川 翔 大阪 大塚高校
- 田中 宏城 福岡 久米工大付属高校
- 山崎 悟 茨城 取手第一高校
- 假屋 和之 熊本 千原台高校

男子ポイントレース

- 三瀬 光誠 山形 村山農業高校 28 p
- 坂本 昌宏 青森 八戸工業高校 18 p
- 松村 光浩 和歌山 紀北工業高校 16 p
- 前田 雅則 和歌山 和歌山北高校 13 p
- 桐本 祥吾 岐阜 岐南工業高校 10 p
- 西村 光太 三重 三重高校 8 p

女子500mタイムトライアル

- 篠崎 新純 千葉 千葉経大付高 38.741
- 平中あゆ美 岩手 伊保内高校 40.826
- 落合麻衣子 宮城 古川工業高校 40.995
- 埋田 麻衣 大分 別府商業高校 41.464
- 岡田由佳子 愛知 桜丘高校 42.061
- 石井 寛子 埼玉 杉戸農業高校 42.209

女子2km個人追抜競走

- 永田 萌子 大分 別府商業高 2:51.798
- 松尾 亜美 大分 日出暁谷高 2:52.557
- 越後 祥子 青森 八戸工業高 2:53.909
- 宮崎 杏奈 大分 別府商業高 2:56.157
- 花山 千宏 宮城 古川工業高 2:56.799
- 須藤 朋美 福島 岩瀬農業高 2:58.966

男子個人ロードレース

- 西村 光太 三重 三重高校 1:13:09.200
- 池田 丈志 奈良 北大和高校 1:13:34.621
- 谷垣 雄基 京都 北桑田高 1:14:20.248
- 柿本 勇介 大分 日出暁谷 1:14:20.452
- 小野 哲裕 神奈川 藤沢北高 1:14:21.622
- 島田 真琴 東京 八王子工 1:14:22.010
- 松村 光浩 和歌山 紀北工高 1:14:22.068
- 村上 純平 山形 山形電波 1:14:23.936
- 天沼 政貴 北海道 尚志学園 1:14:24.343
- 畑中 勇介 東京 昭和一 1:14:25.716

女子個人ロードレース

- 永田 萌子 大分 別府商高 45:33.140
- 篠崎 新純 千葉 千葉経大附高 45:49.671
- 宮崎 杏奈 大分 別府商高 47:18.385
- 岡田由佳子 愛知 桜丘高校 47:53.261
- 須藤 朋美 福島 岩瀬農高 48:10.003
- 平中あゆ美 岩手 伊保内高 48:17.136
- 埋田 麻衣 大分 別府商高 48:42.191
- 越後 祥子 青森 八戸工高 48:56.762
- 岡田 未来 京都 北桑田高 49:07.330
- 佐藤紗矢香 北海道 札幌南 49:15.622

男子総合成績

- | | | | |
|---|--------|----|------|
| 1 | 八戸工業高校 | 青森 | 18 p |
| 2 | 岐南工業高校 | 岐阜 | 17 p |
| 3 | 前橋工業高校 | 群馬 | 16 p |
| 4 | 日出暁谷高校 | 大分 | 14 p |
| 5 | 取手第一高校 | 茨城 | 14 p |
| 6 | 北大和高校 | 奈良 | 13 p |



2002 マウンテンバイク・ジャパンシリーズ開幕

山口孝徳・南部博子が優勝



男子エリートのスタート

4月7日(日)前日の雨が上がり天気は快晴。2002年のジャパンシリーズ・クロスカントリー第1戦が熊本県阿蘇郡小国町で開催された。

男子エリートクラスは、鈴木雷太(長野)、竹谷賢二(千葉)、野口忍(京都)、山口孝徳(埼玉)の4人が集団から逃げ、残り2周で山口(2001年全日本チャンピオ

ン)がリードし最後まで逃げ切った。2位は野口、3位は竹谷。女子は南部博子(長野)が優勝。2位は中込由香里(長野)、3位は高橋いづみ(東京)が入った。

ジャパンシリーズJ1大会がXC9戦、DH5戦。J2大会大会がXC3戦、DH1戦が行われる。

なお、昨年のシリーズチャンピオンは

今回の優勝者の山口、南部。DH男子は内島亮(東京)、女子は昨年ジュニア世界チャンプの末政実績(兵庫)であった。

[競技結果]

クロスカントリー-男子エリート(36km)

- 山口 孝徳 埼玉 MX/MON 1:56:47.53
- 野口 忍 京都 TREK J. 1:58:04.75
- 竹谷 賢二 千葉 FORD 1:58:37.42
- 鈴木 雷太 長野 プリズ 1:58:56.56
- 白石 真悟 大阪 大阪大学 2:00:48.93
- 戸津井俊介 埼玉 YOU CAN 2:03:01.21
- 辻浦 圭 奈良 ヴァイス 2:04:16.43
- 門田 基志 愛媛 焼鳥山鳥 2:05:03.58
- 小笠原崇裕 長野 TREK 2:05:27.43
- リチャード・ナッブ 長野 MX/ST 2:05:56.38

クロスカントリー-女子エリート(20km)

- 南部 博子 長野 TREK VW 1:13:03.10
- 中込由香里 長野 Sy-Nak 1:15:09.72
- 高橋いづみ 東京 Sy-Nak 1:20:03.50
- 真下 正美 神奈川 Sy-Nak 1:20:39.68
- 深井 薫 大阪 FUN RIDE 1:23:21.67
- 田中 裕子 長野 Sy-Nak 1:23:33.61
- 佐藤由布子 神奈川 Sy-Nak 1:24:43.91
- 酒井 真清 大阪 BE-One 1:26:44.62
- 中口 裕代 長野 846 Com -1 LAP
- 大上美夕紀 愛媛 走れ馬鹿犬 -1 LAP

チョン・ジュ M B C 国際ジュニア・ロードレース



第2回のチョン・ジュ国際ジュニアロードレースが4月12日～24日までの9ステージ1037.5kmで行われほぼ韓国を1周する本格的なツールレースに参加した。大会運営も、エリートのツール・ド・コリアに2年前参加された高橋監督によると大変スムーズになっており、年々大会が充実している様子であった。また、昨年のチームから食事や、体調管理、パンクへの注意等アドバイスをもらいマッサーの石田さん、通訳のシンさん、チームカーのドライバーとして日本チームのサポートをしていただいたテジョン女子高校自転車競技部コーチのハンさんの協力のもと参加選手全員が快適な環境の中でレースに挑めた。

プロローグ(4/14)

オーチャンシティ 6.2km

ほぼ平坦な6.2kmのコースで行われたタイムトライアルに114名が1分ごとに発走、日本選手のトップを切って天沼が勢いよく飛び出した。当日強い追い風に乗りアベレージ55km/hで快調にとばした天沼だが残り1.5kmでパンクし20位となった。前走の走者が次々競技を終えスタート地点に戻ってき、7分を切ることが上位入賞の条件として情報が飛び込み日本最終走者の池田に期待をかけた。池田はMAX64.5km/hアベレージ56.3km/hで走りきり見事1位に輝いた。

第1ステージ(4/15)

チョン・ジュ～テ・ジョン 134.3km

前半から、日本のレースにはないハイペースでアタックが繰り返されたが90km付近から天沼を含む6名の逃げが決まり、快調にレースを引っ張るが残り25kmで天沼が落車し日本はチーム総合4位でレースを終えた。また、ゴール前5kmで第2集団が先導バイクのコース間違いによりコースを外れトップ集団から2分以上はなされ大きく上位3チームから時間ロスしたことが最終日まで影響することとなった。

第2ステージ(4/16)

テ・ジョン～イミ・シル 111.5km

朝から強い雨が降る中レースが行われた。当日70mmの雨を記録しコースに泥水がたまり、土が路面に溜まる最悪のコンディションの中メイングループに5名が入り快調にレースは進んだがコース70km手前で10名ほどの落車に辻、池田が巻き込まれ辻は救急車に収容、池田は後輪を取り替えカザフ選手4名と集団を追うが、2度目のパンクに集団復帰できず日本チームにとっては最悪の展開となってしまった。しかし西村5位、天沼6位、金山28位と健闘しステージチーム3位、チーム総合は4位のまま2ステージを終えた。

第3ステージ(4/17)

クワン・ジュ～イオ・ス 120.5km

高低差150mの峠が5つ連続する変化に富むコースで峠ごとにメイン集団の人数が減るサバイバルレースとなった3ステージでは、3日連続で山岳賞を制した韓国のチョン・ソン・ジュが後

半独走しメイン集団から1分53秒差をつけ圧倒的な強さを見せた。日本選手は西村の9位が最高であった。辻は前日の落車で自転車を破損し韓国チームから自転車を借り完走した。強い打撲で様子を見ながら、レースを続け後半にかけることとした。

第4ステージ(4/18)クリテリウム

イオ・ス 2.5km x 20周 50km

イオス市内の商店街の真ん中で行われたクリテリウムは、登りと下りしかないコースで1周4分のラップで大きな集団のままアタックが繰り返された。ゴール前この日もチョンソン・ジュが鋭い足を見せ前日に続き優勝した。西村9位、金山17位と2年生が健闘した。期待した池田はレース中盤よりスローバンクで精彩を欠いた。チーム総合成績は4位につけている。

第5ステージ(4/19)

マ・サン～キョン・ジュ 134.5km

日本チームドライバーのハンさんに無理を言い、韓国では手に入りにくいパーツを提供してもらい辻の自転車が復活した。体調も回復し走れる喜びを感じていた。ジュニア選手にとって海外でのサポート体制が安心してレースに集中できる環境の重大な要素であると感じた。この日のコースは標高700mの山岳越えを10%の勾配で上り下るといいうハードなコースであった。天沼はK.O.M.を2位で通過するも下りでカザフ選手の落車の影響で離され6名の逃げを許し10位となった。池田が後半がんびり第2集団16名の頭をとり7位となった。この日までチームリーダーであった西村は後半疲れ大きく順位を落とし第3集団でゴールし総合順位を大きく落とした。後半のステージでの頑張りを見るとこの日の走りは悔やまれる結果となった。

第6ステージ(4/20)

ポ・ハン～アン・ドン 128.8km

3つの大きな峠の1つ目と3つ目にK.O.M.が設けられ韓国選手が積極的に山岳賞を狙いに行く中、日本選手は誰も絡めなかった。80km過ぎから3名の逃げが決まり62名のメイン集団でゴー

ルになだれ込み池田 8 位、西村15位、佐々木20位という結果であった。佐々木はステージ前半今ひとつ調子が出なかったが第4ステージくらいから走り自信が出てきた。ジュニア選手のメンタルな部分の切り替えを実感した。チーム総合成績は6ステージを終え5位であった。

第7ステージ(4/21)

アン・ドン・ウォン・ジュ 141.5km

日本チームにとってはこのステージで総合順位を一気に上げるべく監督から指示が飛び選手たちも集中し気合いが入っていた。西村が40km過ぎから逃げの集団に乗るも吸収されK.O.M.を通過、峠を越え33名の集団から120kmで天沼を含む3名が抜け出しラスト2kmカザフの攻撃で韓国選手をちぎり、登りゴールの500m前天沼が仕掛けカザフ選手を押さえ見事1位になった。メイン集団でも28名のトップで辻がゴールし4位となりステージチーム優勝を飾った。チーム総合で3位のミ・ウォン高校に7秒差と詰め寄り4位に順位を上げ残り2日につなげた。

第8ステージ(4/22)

ウォン・ジュ・ハ・ナム 101.7km

コース図では高低差のほとんどないフラットなコースだと思っていた8ステージは、実際には全コースにわたり

アップダウンのある変化に富んだコースで、ハイペースでレースが展開された。途中何回もアタックがありポディナンバーが無線ではいるが日本選手は呼ばれなかった。チームカーからは集団のレースが見えずやきもきしたが、90km地点で先頭をとらえ77名の集団ゴールとなった。結果6位以降70名が7位という成績であった。

第9ステージ(4/23)

イ・チェン・ジョン・ジュ 108.5km

最終日チーム総合7秒差で4位につける日本チームは、平坦コースでゴール勝負の時の作戦を監督から指示を受けスタートした。前半30kmまでは比較的遅いペースで進行したが30km過ぎからアタックが繰り返され、50kmをすぎたところでチーム総合5位につけるソウル高校が4名で驚異的な逃げに打って出た。それに反応できたのは池田を含むチーム総合1位のヤン・ヤン高校2名と2位のカザフ1名、3位のミ・ウォン高校1名他2名だけであった。ソウル高校は途中3名になりながらも先頭集団10名を引きまくりみるみるメイン集団との差を開け、逆転を決定的なものにした。池田はゴール前ジョン・ソン・ジュをマークしきれず5位に終わった。メイン集団はゴール前絶好の位置に着けた天沼、辻の前の番手選手が落車し金山が34位となった。この結果、ソウル高校が

総合で3位に逆転し日本は総合成績5位でレースを終えることになった。ステージレースの走り方、経験の差が出た1戦となった。

今回14日間にわたる海外遠征に参加させていただき、国内では考えられないレース運営に良くも悪くもカルチャーショックを受け、韓国選手のタフさに驚き選手たちも私もいい経験をさせて頂いた。この経験は今後の自転車人生に大きな影響を与えてくれると確信する。またこの機会を与えていただいた連盟と高橋監督、石田マッサーの協力なくしては今回の遠征の成功はなかったと思う。ご協力いただいた各方面の方々には紙面を借りて感謝申し上げます。(田中 良泰)

[競技結果]

総合成績

1	CHANG Sun Jae	KOR	26:22:11.00
2	KIM Dong Young	KOR	26:23:45.00
3	PARK Sung Baek	KOR	26:25:42.00
16	西村 光太	JPN	26:31:26.00
20	天沼 政貴	JPN	26:33:05.00
21	池田 丈志	JPN	26:34:30.00
25	金山慎一郎	JPN	26:40:25.00
36	辻 善光	JPN	26:15:53.00
54	佐々木 齋人	JPN	28:05:42.00

団体総合

1	YANG YANG H.S	KOR	78:57:28.00
2	KAZKHSTAN	KAZ	79:01:09.00
3	SEOUL H.S	KOR	79:04:27.00
5	日本	JPN	79:07:08.00

ジュニアチーム・オーストラリア合宿

合宿場所 オーストラリア・シドニー

合宿期間 2002.2.10～18

選手団

監督 山崎 好弘(岐南工)
 コーチ 塚崎 邦嗣(日出暁谷)
 辻 正男(科学技術)
 選手 白井 昌巨(岐南工業)
 伊原 弘幸(科学技術)
 小岩 大介(日出暁谷)
 橋本 強(松山聖陵)
 北津留 翼(豊国学園)

ジュニアチームによる、海外合宿が2月10日から18日までオーストラリア・シドニーで行われた。

昨年9月に山梨県境川自転車競技場で

おこなわれたジュニア全国合宿で好成績を収めた上位5名の選手が参加した。

合宿期間中はオーストラリアのサットンコーチにお世話になり、午前中はロード練習、午後はベロドローム(250m板張り)でのバンク練習が行われた。

また、地元ニューサウスウェルズ州での競技大会(13カテゴリー、参加人数133名)に参加し、スプリントでは北津留選手が優勝するなど、日本ではこの時期冬でシーズンオフにもかかわらず、オーストラリアの選手と同等に戦った。

今回初めて参加し、合宿を通じて選手自身も一回り大きくなったように感じた。また有意義な海外合宿を経験で

き関係者の皆さまに深く感謝したい。

(辻 正男)

[競技結果]

1kmタイムトライアル

1	SOMMER ALEXANDER	AUS	1:07.663
2	北津留 翼	JPN	1:08.352
3	SUTTON CHRISTIPHER	AUS	1:08.371
5	橋本 強	JPN	1:08.652
6	白井 昌巨	JPN	1:08.652
9	小岩 大介	JPN	1:08.764
12	伊原 弘幸	JPN	1:11.341

スプリント

1	北津留 翼	JPN
2	SOMMER ALEXANDER	AUS
3	小岩 大介	JPN
4	白井 昌巨	JPN
6	橋本 強	JPN
14	伊原 弘幸	JPN

2002トラック・ワールド・カップ第1戦メキシコ大会



日本選手団



[競技結果]

男子ケリソ

- 1 ESCUREDO RAIMONDEZ José Antonio ESP
- 2 MEI Domenico ITA
- 3 NG ONN Josiah MAS
- 6 山田 裕仁 JPN

男子チームス[®] リソ

- 1 FRA 1:02.132
- 2 GER 1:02.752
- 3 POL 1:03.181
- 6 JPN (井上・中川・小野) 1:03.948

女子500mタイムトライアル

- 1 MARKAUNICHENKA Natalia BLR 35.353
- 2 CONTRERAS Nancy MEX 35.475
- 3 MEINKE Katrin GER 35.947

11 太刀川麻也 JPN 37.401

女子ケリソ

- 1 GONZALEZ Yumari CUB
- 2 MEINKE Katrin GER
- 3 GRANKOVSKAIA Svetlana RUS
- 太刀川麻也 JPN 敗復敗退
- 遠藤 友子 JPN 敗復敗退

男子ス[®] リソ

- 1 WOLLF Rene GER
- 2 HERRERA Julio Cesar CUB
- 3 JOHN Matthias GER
- 小野 俊之 JPN 予選敗退
- 渡辺 晴智 JPN 予選敗退

男子1kmタイムトライアル

- 1 TOURNANT Arnaud FRA 1:02.362
- 2 ESCUREDO RAIMONDEZ José Antonio ESP 1:04.141
- 3 KREJNER Grzegorz POL 1:04.258
- 7 中川誠一郎 JPN 1:05.798

女子ス[®] リソ

- 1 MAERKAUNICHENKA Natalia BLR
- 2 GRANKOVSKAIA Svetlana RUS
- 3 THOMAS Tammy USA
- 太刀川麻也 JPN 予選敗退
- 遠藤 友子 JPN 予選敗退



2002トラック・ワールド・カップ第3戦～第5戦 日本代表選手団

第3戦 モスクワ大会

大会期間 2002年5月31日～6月2日
 派遣期間 2002年5月27日～6月4日
 競技会場 ロシア モスクワ
 参加選手 長塚 智広 (JPCA 茨城)
 栗田 雅也 (JPCA 静岡)
 大森 慶一 (WCC)
 永井 清史 (WCC)
 飯島 誠 (JPCA)

第4戦 カリ大会

大会期間 2002年6月21日～23日
 派遣期間 2002年6月17日～25日
 競技会場 コロンビア カリ
 参加選手 飯島 規之 (JPCA 埼玉)
 渡辺 晴智 (JPCA 静岡)
 伏見 俊昭 (JPCA 福島)
 太田 真一 (JPCA 埼玉)
 金子 貴志 (JPCA 愛知)
 永井 清史 (WCC)
 太刀川麻也 (茨城)
 遠藤 友子 (大分)

第5戦 昆明(クンミン)大会

大会期間 2002年8月9日～11日
 派遣期間 2002年8月5日～12日
 競技会場 中国 昆明(クンミン)
 参加選手 神山雄一郎 (JPCA 栃木)
 飯島 規之 (JPCA 埼玉)
 伏見 俊昭 (JPCA 福島)
 金子 貴志 (JPCA 愛知)
 伊勢崎彰大 (JPCA 千葉)
 井上 昌己 (JPCA 長崎)
 太刀川麻也 (茨城)
 遠藤 友子 (大分)

スタッフ 監督
 (3～5戦共) コーチ
 メニヤン
 マッサージャー
 通 訊

班目 秀雄 (連盟強化コーチ)
 ゲリー・ウェスト (連盟強化コーチ)
 藤原富美男 (連盟強化スタッフ)
 柳 浩史 (連盟強化スタッフ)
 増田恵美子 (連盟強化スタッフ)

第22回アジア自転車競技選手権・第9回ジュニア・アジア自転車競技選手権 日本代表選手団

大会期間 2002年5月4日～5月10日

派遣期間 ロード競技：2002年4月30日～5月7日

トラック競技：2002年5月3日～11日

競技会場 ロード競技：タイ・スプハン・ブリ

トラック競技：タイ・バンコク・フアマーク自転車競技場

参加選手

トラック

エリート男子<短距離>

長塚 智広 (JPCA 茨城)・堤 洋 (JPCA 徳島)・栗田 雅也 (JPCA 静岡)
大森 慶一 (WCC)・永井 清史 (WCC)

エリート男子<中距離>

窓場加乃敏 (JPCA 京都)・飯島 規之 (JPCA 埼玉)・諸橋 愛 (JPCA 新潟)
飯島 誠 (JPCA)・坂口 博 (愛知)・黒木 裕介 (宮崎)

エリート女子<短距離>

太刀川麻也 (茨城)

エリート女子<中距離>

松永 舞美 (香川)

ジュニア男子<短距離・中距離>

橋本 強 (愛媛)・臼井 昌巨 (岐阜)・北津留 翼 (福岡)
三瀧 光誠 (山形)・須賀 和彦 (茨城)

ジュニア女子<短距離>

遠藤 友子 (大分)

ロード

エリート男子 岡崎 和也 (JPCA)・狩野 智也 (JPCA)・鈴木 真理 (JPCA)・渋谷 淳一 (JPCA)

エリート女子 大塚 歩 (栃木)・中村 珠藻 (奈良)・木村 春恵 (青森)

ジュニア男子 西村 光太 (三重)・池田 丈志 (奈良)

スタッフ

監督 班目 秀雄 (連盟強化コーチ)
 コーチ ゲーリー・ウェスト・福田 公生
 山崎 好弘 (連盟強化コーチ)
 ドクター 青木 義広 (防衛医科大学校)
 メカニシャン 藤原富美男・鬼原 積 (連盟強化スタッフ)
 マッサージャー 柳 浩史・石田 宗男 (連盟強化スタッフ)
 通 訳 増田恵美子 (連盟強化スタッフ)
 総 務 選手強化部 2名

トラック

金メダル速報 !!

男子エリート

個人追抜:飯島 規之
 1kmT.T.:大森 慶一
 スプリント:永井 清史
 ケイリン:堤 洋
 ポイントレース:飯島 誠
 チームスプリント
 :長塚・永井・大森

男子ジュニア

スプリント:北津留 翼
 チームスプリント
 :橋本・北津留・臼井

女子ジュニア

スプリント:遠藤 友子

(詳細は次号で)

ロード速報 !!

男子エリート個人ロード 男子エリート個人TT
 4位 渋谷 淳一 1位 岡崎 和也

女子エリート個人ロード 女子エリート個人TT
 2位 中村 珠藻 5位 大塚 歩

男子ジュニア個人ロード 男子ジュニア個人TT
 5位 池田 丈志 6位 池田 丈志

(詳細は次号で)

日本新記録

500mタイムトライアル

女子ジュニア 38秒156 遠藤 友子 (大分)

2002/5/7 タイ・バンコク

CSC2002マスターズ・障害者自転車競技大会
(第4回サイクルカーニバルin静岡)募集のお知らせ

主 催 (財)日本サイクルスポーツセンター・静岡県自転車競技連盟
 主 管 サイクルカーニバル実行委員会
 日 時 平成14年7月20日(土)・21日(日) 場 所 日本CSC 北400mトラック
 申込締切 平成14年6月15日(定員になり次第締切)
 問合せ先 〒424-0821 清水市相生町6-28 相生町歯科クリニック内
 サイクルカーニバル実行委員会事務局 TEL: 0543-51-1148 FAX: 0543-54-0871

連載企画 第28回

(再最終回)

アンチ・ドーピングについて

補足説明

- ある特定条件下での禁止物質の種類 -

新津谷 真人 ニイツマ マサト

昭和60年 北里大学医学部卒業
循環器内科研修を経て平成7年より現職の北里大学医学部、
衛生学・公衆衛生学講師
(財)日本体育協会・スポーツドクター
(財)日本自転車競技連盟・アンチドーピング委員

笠師 久美子 カサシクミコ

昭和56年 北海道薬科大学薬学部薬学科卒業
北海道大学歯学部附属病院薬剤部
平成7・8年 日本水泳連盟医学委員会
(財)日本自転車競技連盟・アンチドーピング作業部会委員

米本 吉之 ヨネモト ヨシユキ

昭和57年 昭和薬科大学卒業
(株)日本調剤勤務
JCF3級審判、C級スポーツ指導員

今までに「アンチ・ドーピングについて」を27回連載してきましたが、連載の長期化に伴い、過去の内容を知らないとの誤解を招く部分が出てきました。特に、第22回連載(2001年8月号)～第27回連載(2002年3月号)で「使用可能な医薬品」として掲載した医薬品の中に、注意を要するものが含まれています。

1 ある特定条件下での禁止物質の種類

UCIアンチドーピング委員会より「ある特定条件下での禁止物質の種類」として提示されている薬物を使用する際には、「(薬物の使用が)医学的根拠により正当とされること」を証明する必要があります。具体的には、アレルギー性鼻炎(花粉症)や気管支喘息等の治療にベータ2作用剤やグルココルチコイドを使用する場合に、医師の診断書を用意しておく必要があります。これらの薬物は、いずれも局所使用のみが認められています。該当する主な医薬品を2つの表にまとめてありますので、医療機関を受診する際には活用してください。

2 関連する過去の連載 詳細は以下の連載をご覧ください。

第15回連載(2000年11月号)「禁止物質の種類と禁止方法(2)」

第17回連載(2001年1月号)「禁止物質の種類と禁止方法(4)」

第18回連載(2001年3月号)「薬の知識(11)- 医師の診断書や処方箋を提出する必要がある薬物 - 」

注意を要する主な吸入薬

分類	商品名(製薬会社名)	薬剤名
1. - 刺激剤	アイロミ - ルエアゾル(大日本製薬)	硫酸サルブタモール
	アスブ - ル液(アズウェル)	dl- 塩酸イソプロテレノール
	アロテック吸入液(日本ベ - リンガ -)	硫酸オルシブレナリン
	アロテックエロゾル(日本ベ - リンガ -)	硫酸オルシブレナリン
	イノリン吸入液(田辺製薬)	塩酸トリメトキノール
	サルタノ - ルインヘラ - (グラクソ・スミスクライン)	硫酸サルブタモール
	セダンゾ - ル“イソ”(日本臓器)	硫酸イソプロテレノール
	ブリ - ジンインヘラ - (共和薬品)	塩酸プロカテロール
	ベネトリン吸入液(三共)	硫酸サルブタモール
	ベロテックエロゾル(日本ベ - リンガ -)	臭化水素酸フェノテロール
	メジヘラ - ・イソ(大日本製薬)	硫酸イソプロテレノール
	メチレ - ヌエア - (メディサ - 沢井)	塩酸プロカテロール
	メプチンエア - (大塚製薬)	塩酸プロカテロール
	メプチンキッドエア - (大塚製薬)	塩酸プロカテロール
メプチン吸入液(大塚製薬)	塩酸プロカテロール	
2. - 刺激剤配合剤	ストメリン(藤沢薬品)	硫酸イソプロテレノール
	ストメリンD(藤沢薬品)	硫酸イソプロテレノール・デキサメタゾン他
	メジヘラ - D(大日本製薬)	dl- 塩酸イソプロテレノール
3. 副腎皮質ステロイド剤	アルデシンエアゾ - ル(シェリング・プラウ)	プロピオン酸ベクロメタゾン
	アルデシン100(シェリング・プラウ)	プロピオン酸ベクロメタゾン
	アルデシン100D(シェリング・プラウ)	プロピオン酸ベクロメタゾン
	タウンラス(日研化学)	プロピオン酸ベクロメタゾン
	フルタイドロタディスク(グラクソ・スミスクライン)	プロピオン酸フルチカゾン
	ベコタイド50インヘラ - (グラクソ・スミスクライン)	プロピオン酸ベクロメタゾン
	ベコタイド100インヘラ - (グラクソ・スミスクライン)	プロピオン酸ベクロメタゾン

注意を要する主な眼科用剤

分類	商品名(製薬会社名)	薬剤名
1. 副腎皮質ステロイド剤	オドメ - ル(千寿 - 武田)	フルオロメトロン
	コンドロデキサ(科研)	メタスルホ安息香酸デキサメタゾンナトリウム
	サンテゾ - ン(参天)	デキサメタゾン
	デカドロン(萬有)	リン酸デキサメタゾンナトリウム
	ネオ・メドロ - ルEE(ファルマシア・アップジョン)	メチルプレドニゾロン配合剤
	ビジュアリン(千寿 - 武田)	デキサメタゾン
	フルメトロン(参天)	フルオロメトロン
	プレドニゾロン(日本点眼薬)	プレドニゾロン
	リンデロン(塩野義)	リン酸ベタメタゾンナトリウム
	リンデロンA(塩野義)	リン酸ベタメタゾンナトリウム


UCIニュース

2002年第1版UCI禁止薬物と方法のリスト

アンチドーピングのための禁止薬物と方法のリスト(http://www.uci.ch/english/about/rules/ch14_dopage_liste_20020501.pdf)が改訂され、5月1日から発効しました。主な変更点は、第III章C項のグルココルチコステロイドに関するものです。グルココルチコステロイドの使用に関し、局部使用においては、医学的根拠と使用方法を診断書により証明しなければなりません。全身使用による治療を受けるためには、競技者はこれを使用する医学的証明(診断書)を提出してUCIアンチドーピング委員会による事前承認を必要とします。

しかしながら、ある国の国内法規(たとえばフランス)は全身使用を禁止していることに注意してください。該当する場合、競技者は検査が行われた国の機関により処罰されます。したがって、こうしたことを予防する適切な事前対策をとるよう勧告いたします。


JCFニュース

ヘルメットの新規公認

公認番号	公認日付	公認申請社	製造社	形式名	公認条件
20-166	2002/4/15(更新)	(株)深谷産業	SELEV S.A.S.	ALIEN	
20-179	2002/4/15(更新)	(株)深谷産業	SELEV S.A.S.	ATOM	
25-70	2002/4/24(更新)	(株)キャットアイ	PROHOTON IND.CO.LTD.	PUヘルメット・H101	
33-158	2002/3/15(更新)	インターマックス	MET SPA	アナクサゴレ(Anaxagore)	バイザーはマウンテンバイク・クロスカントリー、シクロクロスにおいてのみ使用が認められている旨の注意書を同梱すること。
33-167	2002/3/15(更新)	インターマックス	MET SPA	ストラディバリウス(Stradivarius)	
33-183	2002/3/15(更新)	インターマックス	MET SPA	イポグリフォ(Ippogrifo)	
33-194	2002/5/8(新規)	インターマックス	MET SPA	V-エレメント(V element)	バイザーはマウンテンバイク・クロスカントリー、シクロクロスにおいてのみ使用が認められている旨の注意書を同梱すること。
34-130	2002/4/24(更新)	オージーケー販売(株)	オージーケー技研(株)	W-2R	
35-193	2002/3/15(新規)	東京サンエス(株)	LAS	KRIPTON	

(株)深谷産業 460-0015 愛知県名古屋市中区大井町1-38 052-321-6571
 (株)キャットアイ 546-0041 大阪府大阪市東住吉区桑津2-8-25 06-6719-7781
 インターマックス 400-0074 山梨県甲府市千塚5-10-9 055-252-7333
 オージーケー販売(株) 577-0037 大阪府東大阪市御厨西ノ町2-1-3 06-6783-5906
 東京サンエス(株) 110-0005 東京都台東区上野3-7-1 03-3834-2041

SHIMANO

勝つための選択



SPD
SHIMANO PEDALING DYNAMICS

株式会社シマノ 〒590-8577 堺市老松町3丁目7番地 「お客様相談窓口」電話 072-243-2829
 当社の自転車部門の製品カタログご希望の方は、『カタログ希望』と明記し、300円切手同封の上、
 〒590-0944 堺市柳屋町東1-1-1「シマノクラブPRセンター」宛にご郵送下さい。
 シマノ自転車製品は、インターネットホームページ <http://cycle.shimano.co.jp> でもご覧になれます。

乗車したまま走りきるコースレイアウトがマウンテンバイクレースの世界的な流れになっています。シマノはよりペダリングを重視したSPDシューズ&ペダルをそろえています。

高強度カーボンソール搭載
軽量シューズ

SH-M220
¥17,800
標準小売価格(税別)



泥ハケ性能
ステップイン&アウト
フィーリングを
大幅に向上

PD-M959
¥13,700
標準小売価格(税別)



「強化指定・中距離選手」による強化合宿

今年度2回目の「強化指定・中距離選手」による強化合宿が、3月19日より22日までの4日間グリーンドーム前橋で実施された。

今回は、アジア選手権出場選手の選手も兼ねるとあって、参加した選手はいつもにも増して真剣にトレーニングに取り組んでいた。なお、この合宿には短距離の太刀川麻也、遠藤友子も特別参加。こちらは、ゲーリーコーチから指示されたトレーニングメニューを消化した。どの合宿でも共通しているが、合

宿は早朝ウォーキングから始まる。午前6時45分、全員が集合しそれぞれの脈拍数と当日の体調を自己申告する。体重測定後、ウォーキングに移る。

グラウンド練習は、2km団体追抜や、4km個人追抜などを中心に実戦的な内容で行われた。夜間の講義は、形本静夫・順天堂大学教授による「トレーニングによる筋組織の変化と効果について」、小清水孝子・管理栄養士による「トレーニングと疲労回復と食事について」、永友憲治・国立スポーツ科学センター指導員

による「ウエイト・トレーニングについて」がそれぞれ行われた。最終の4日目は、育英高校に於いてウエイトトレーニングの実技指導が実施された。

合宿では、新規購入した乳酸測定器が持ち込まれ、各選手の血液を採取して疲労度をチェック。医科学陣によるサポート体制の充実とあいまって、中距離選手にとってもウエイトトレーニング及び食事の重要性が再認識された合宿となったようだ。



乳酸測定のための血液採取



グリーンドームでの練習

ナショナルチーム・オーストラリアキャンプ

3月26日から4月2日まで新ナショナルチーム及び特別育成チームがオーストラリア・アデレードで強化合宿を行った。



トラック内風景



ウエイトトレーニング風景

田丸一氏 勲五等瑞寶章受賞



田丸一氏(大正11年生、宮城県自転車競技連盟前会長、現・顧問)は、平成13年度秋の叙勲において「勲五等瑞寶章」を受章された。

この受章を祝う会(主催:東北高等学校自転車競技部OB会)が、去る平成14年3月17日に仙台市内のホテルにて開催された。

MTBジュニア世界チャンピオン 末政実緒が連盟表彰を受ける



末政実緒選手が昨年の世界チャンピオン(マウンテンバイク・ダウンヒル・ジュニア女子)に輝いた功績を讃え、3月29日、日本自転車会館に於いて、本連盟岩楯会長より表彰を受けた。

JBMXF スーパーシリーズ開幕 第1戦

4月14日(日)大阪府堺市・堺市どろんこ広場BMXトラック(主管関西BMX競技連盟)にてJBMXFスーパーシリーズ第1戦が開催された。

この大会は関西BMX競技連盟の設立、並びに堺市どろんこ広場BMXトラック設置に協力をいただいた加賀谷忠夫氏の第1回目の記念レース。大会会場の堺市どろんこ広場BMXトラックには、150名の選手そして300余名の若者の声援をバックに、抜けるような青空のもと緑の風を切った熱戦とな

り、レースは前年通りの展開となり西高東低の成績であった。

本年度スーパーシリーズ戦は全部で5戦、年間トータルで第3位までのスーパーライダーには2003年オーストラリア世界選手権への出場権が与えられる。

(蒔田 一)  関西BMX連盟

[競技結果]

1 三浦 進	大阪	5 島田 忠彦	広島
2 黒田 淳	岡山	6 高松 健二	兵庫
3 土井 昭	大阪	7 栗瀬 裕太	大阪
4 西岡 哲朗	広島	8 阪本 章史	大阪



競技大会結果

大会名・チーム名等については略して記載

ワールド・タスマニア (オーストラリア 2/27-3/3)

[個人総合成績]

1 Luke Roberts	AUS
2 Russell Van Hout	AUS
3 Simon Gerrans	AUS
12 狩野 智也	JPN
21 岡崎 和也	JPN
28 鈴木 真理	JPN
41 飯島 誠	JPN
49 田中 光輝	JPN

女子ワールド・カップ 第1戦 (オーストラリア 3/3)

1 ROSSNER Petra	GER	3:14.25
2 GILMORE Rochelle	AUS	3:14.25
3 MELCHERS Mirjam	NED	3:14.25
23 沖 美穂	JPN	3:16.25
37 大塚 歩	JPN	3:19.15
46 唐見実世子	JPN	3:19.15
53 西 加南子	JPN	3:24.18
54 中村 珠藻	JPN	3:24.18
61 嶋田 広子	JPN	3:27.26
64 木村 春恵	JPN	3:30.10
67 坂井田理沙	JPN	3:32.43

第5回ワールド・スウィ (オーストラリア 3/4-6)

[個人総合成績]

1 Judith Arndt	GER
2 Mirjam Melchers	NED
3 Susanne Ljungskog	SWE
12 沖 美穂	JPN
32 大塚 歩	JPN
36 嶋田 広子	JPN
46 中村 珠藻	JPN
53 坂井田理沙	JPN

女子ワールド・カップ 第2戦 (ニュージーランド 3/10)

1 ROSSNER Petra	GER	2:58.22
2 GILMORE Rochelle	AUS	2:58.22
3 KUPFERNAGEL Hanka	GER	2:58.22
15 沖 美穂	JPN	2:58.22
31 大塚 歩	JPN	3:07.36

 関西BMX連盟

沖 美穂、世界で活躍 !!



フランスの女子プロフェッショナルチーム Club Athlétique de MANTES-LA-VILLE 78 (C.A.M.V.78 <http://www.gs-camv78.com/>) で活躍する沖 美穂は、ワールドカップで着々とポイントを獲得する他、Trofee des Grimpeursの優勝、UCIカテゴリー1のTour de Berneにおいても3位に入る健闘を見せている。

なお、5月5日時点でのUCIロードランキングは47ポイントの69位である。

[主な成績]

ロード・ワールド・カップ 第1戦 (3/3 オーストラリア)	23位
ロード・ワールド・カップ 第2戦 (3/10 ニュージーランド)	15位
ロード・ワールド・カップ 第3戦 (3/23 イタリア)	37位
ロード・ワールド・カップ 第4戦 (4/17 ベルギー)	19位
ロード・ワールド・カップ 第5戦 (4/21 スペイン)	8位
第28回 Trofee des Grimpeurs (5/1 フランス) 優勝	
Tour de Berne (5/12 スイス)	3位

全日本実業団自転車競技連盟 35周年記念式典

全日本実業団自転車競技連盟創立35周年を祝う式典が3月8日、日本自転車会館3号館1階イベントホールに於いて盛大に行われた。



2002年MTBジャパンシリーズJ2大会(XC)
レースカレンダーに追加

2002年9月28日～29日

愛媛県 八幡浜市双岩(八幡浜市民スポーツパーク MTB 競技コース)

トラック・ロード第1級公認審判員の承認について

平成13年度第4回理事会(平成14年3月14日開催)において下記の方がトラック・ロード第1級公認審判員として承認されました。

吉田 一美(埼玉)・吉田 武美(埼玉)・浅倉 基(富山)
竹村 孝行(富山)・山崎 好弘(岐阜)・岡本 昌明(大阪)
花房 初博(兵庫)・本田 周一(兵庫)・上野 孝(和歌山)
塚崎 邦嗣(大分)

事務局人事(平成14年5月1日付)

齋藤 晃一郎

選手強化課

課長(旧) 第一課長(新)

木内 浩成

選手強化課

課長補佐(旧) 第二課長(新)

専門委員会・強化スタッフ部会新委員

ストレングスコーチ 永友 憲治

県車連等の住所変更

静岡県自転車競技連盟

〒421-3301

静岡県庵原郡富士川町北松野620-2

(有)有開内 松村 正之様

TEL & FAX: 0545-85-3128

長崎県自転車競技連盟

〒587-0011

長崎県佐世保市春日町29-22

西海学園高等学校内 針浦 様

TEL: 0956-23-6161

FAX: 0956-23-6164

JCFマウンテンバイク登録事務局

〒160-0015

東京都新宿区大京町21-41

TEL: 03-3358-6030

連盟の動き(3月中旬～5月上旬)

3月14日 平成13年度第4回理事会

19日 中長距離強化指定選手強化合宿(～22日)於:前橋ドーム

21日 新・登録システム試行に係わる説明会 於:大阪

25日 長距離・強化指定選手強化合宿(～4/1)於:日本CSC

26日 ナショナルチーム合宿(～4/2)於:オーストラリア・アデレード

29日 平成13年度第2回評議員会

4月2日 職員会議

平成14年度公益補助金内定通知伝達式/説明会於:新霞ヶ関ビル

12日 チョンジュ国際ジュニアロード選手団出発(帰国 4/24)於:大韓民国

15日 トラックワールド・カップ第1戦選手団出発(帰国 4/23)於:メキシコ

18日 平成14年度第1回常務理事会・選手強化本部会

26日 平成14年度第1回アンチドーピング委員会・第1回アンチドーピング作業部会

30日 アジア・ジュニアアジア選手権ロード選手団出発(帰国 5/7)於:タイ

5月3日 アジア・ジュニアアジア選手権トラック選手団出発(帰国 5/11)於:タイ

8日 職員会議

12日 平成14年度第1回選手強化委員会於:東京・京王閣競輪場

編集後記

エコーをインターネットでご覧になっている皆様、今まで通り紙面でご覧になっている皆様、こんにちは(^ ^)

前号でお知らせの通り紙面でのご利用が有料配送になりまして、従来なら手元に届いた本誌をえいっとひっくり返すとこの最終ページがいやがおうにも目に届きましたのに、webからこのページにたどり着いてくださった方には深々とご挨拶申し上げたい所存です。

前号で長期連載を終了しました「アンチドーピング」はJCFホームページに全て掲載されております。今後も競技関係者の皆様におきましては必須事項と思われませんが、常時取得できる状況にありますので便利にご利用いただければと思います。

それにしても、最近の便利さといったら網羅し続けるネット環境のお陰でどこまでも無限の広がりを見せていますが、例えば競技大会を開催するにも参加料はコンビニで払込、そのデータを入力作業なしで出場リストにまで持って行ってくれるとかで、面倒だった事務処理が半減以下。なにもコンビニにまで行かなくとも家にある便利な箱から入金も出来てしまうのでありましょか? そういえば高速料金の顔パスつけ払いのETCなんていうのも出てきて、この世から貨幣を消してしまおうとでも言うのでしょうか? いずれにしても先の見えない平成の大不況のお陰でエコーも高速瞬間移動という技をも使って皆様の元へとお送りすることになりました由、よりご満足いただける紙面(画面)作りを心がけていきたいと考えております。<(_)>

風薫る5月。自転車月間を迎え自転車競技大会たけなわの時節を自分なりに楽しみたいと思う今日この頃です。

(吉田 八栄子)



シクリスムエコー No.86 2002年4・5月号

発行/財団法人 日本自転車競技連盟

発行人/岩 楯 昭一

編集人/村田 統司

編集事務局/財団法人 日本自転車競技連盟 事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-15 日本自転車会館内

TEL 03-3582-3713 FAX 03-5561-0508

URL <http://www.jcf.or.jp/>